

Pickup 東大特任准教授米永一理先生

口腔医科学会： 当学会指導医で、東大特任准教授米永一理先生の COVID-19 に対する活動が掲載されました

日本歯科新聞

2020年(令和2年)

5月12日

<発行所>
日本歯科新聞社

〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町2-15-2
電話 03(3234)2475
FAX 03(3234)2477
厚生労働省記者クラブ加盟社
年間購読料 19,800円(送料込)
(本体 18,000円+税)
月4回、火曜日発行
郵便口座番号 00120-5-130369

本紙のサイトとメールアドレス
www.dentalnews.co.jp
jdn@dentalnews.co.jp

訪問診療の留意点をウェブで

ダブルライセンスの米永東大特任准教授が解説

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する最新情報と、歯科訪問診療での留意点について、歯科医師と医師のダブルライセンスを持つ米永一理東京大学特任准教授(イートロス医学講座)が写真IIがウェブで解説した。

訪問歯科協が配信

「新型コロナウイルス感 月30日まで公開した。 染症対策と今後の動向」と 米永氏は、これまで論文 題し、日本訪問歯科協会が などで明らかになっている 緊急講演として配信。第 事実を解説し、「今後、新 たな事実が明らかになると 1-7回日本内科学会緊急 シンポジウムの内容を踏ま 考えられており、学術論文 えて4月11日に収録し、4 など信頼性の高い情報に注



「目すべきだ」と訴えた。 2003年に流行したSARSとの違いは、SARSではほとんどが重症化したのに対して、COVID-19では無症状、軽症のま

大きいと指摘。感染の連鎖を見つけたことが極めて難しいことが特徴だとして、その上で、感染者、接触者、感染連鎖、クラスターなどは、管理下であれば収束させることが可能であり、これまでのクルーズ船

和歌山県での病院での感染連鎖、大阪市のライブハウスでのクラスター感染は、いずれも新たな流行につながるという点を強調。4月現在、感染が急速に広がっている背景には、無症候者の存在が考えられるため、誰もが感染を媒介するリスクがあると認識すべきだと注意を促した。各国で開発と検証が始まっている治療薬については、「いずれも特効薬ではない。抗ウイルス薬は、症状が進行してからではなく初期投与が必要となるだろう」と指摘。できるだけ感染を予防し、感染しても症状が穏やかになるよう免疫を高めることが重要だと述べた。 医科の訪問診療で、ウェブや電話による遠隔診療が広がっており、訪問を減らす医療機関の取り組みを紹介。どうしても訪問が必要な場合でも、医師一人で訪問することで感染リスクを回避しているとした。 日常生活での留意点としては、安定性が高いウイルスで、紙幣に付着したまま長期間感染力を維持できることや、「一部の高血圧治療薬にCOVID-19の重症化リスクがある」と指摘されているのに過剰反応して服薬を止めてしまうべきでないなどの点を示した。